

# 姫路南プロバスクラブ

二水会

令和6年6月



会報123号

4月例会報告 5月例会報告

石橋湛山の志

長谷川一彦

木質バイオエネルギー

藤原関夫

83歳の誕生日

田中昭夫

Belle vie の会

前田外美子

人生2度あり

松下秀明

# 令和6年度定時総会

令和6年4月17日(水) 11:30

出席15名 欠席2名

第一部 総会 司会 岡本総務委員長

## 1. 大橋会長挨拶

令和6年定時会員総会開会時挨拶

本日、令和6年の定時会員総会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

世情は、ロシアのウクライナ侵攻の戦争が3年目を迎え、なお終結の見通しが立たない。イスラエルではハマスの攻撃に報復して戦争が拡大し、イランの報復を招き、危機は拡大する懸念が生じております。国内を見ましても、岸田内閣の支持率低下、政治資金の報告不記載不透明による政治不信、岸田首相の後継難など、どうも先行きの不透明感がぬぐえません。



このように、世情は不透明感が漂う状況ではありますが、当会の活動は、新年度を迎え、安定、着実に、心豊かに楽しく活動できますように、励んでまいりたいと念願するところです。この希望が実現できますよう、事業計画等、建設的な意見交換ができますことを願いたします。

## 2. 岡本総務委員長ひとこと

当クラブも創立20年の節目を過ぎ、新たな先を目指して進んでいきます。皆さんと共に、力をあわせてより楽しいク

ラブとなるよう群がり、歩みを進めたいと思います。

新年にあたり私事を言いますと、昨年大事には至りませんでした。足がもつれ二度転倒し、足腰の衰えを痛感しています。今年は、急がず、慌てず、ゆっくりと、を念頭に今少し世間とかかわっていきたいと思います。

皆さんに迷惑をかけるようなことがあるかも分かりません。その節はお許し下さい。

## 3. 来賓祝辞

姫路南ロータリークラブ会長 小林様



姫路南プロバス会が地域社会に根差し地域社会に貢献し楽しい会でありますように。そしてロータリークラブは姫路南プロバスクラブをいつも支えるという温かいご挨拶を頂戴いたしました。

## 4. 議長選出 大橋会長

## 5. 議事

- ・第1号議案 令和5年度事業報告
- ・第2号議案 令和5年度会計報告  
同 監査報告
- ・第3号議案 令和6年度役員選出  
会長 大橋一喜(留任)  
副会長 岡本浩一(留任)  
総務委員長 岡本浩一(留任)  
企画委員長 藤原関夫(留任)

- |         |           |
|---------|-----------|
| 研修親睦委員長 | 市河保俊（留任）  |
| 広報委員長   | 川本祥子（留任）  |
| 会計      | 坪田一夫（新任）  |
| 会計監査    | 明石美奈子（留任） |
| 顧問      | 中野 剛（留任）  |
| 参与      | 中塚昭三（留任）  |
- ・第4号議案 令和6年事業計画
  - ・第5号議案 令和6年会計予算
- 以上 全員賛同で総会終了

### 令和6年度 大橋会長就任の挨拶

ただ今、総会におきまして、任期満了に伴う役員の変更が承認され、私は会の代表として2期目を迎えることになりました。

会の現状につきましては、会員の皆様もご認識の通り、会員の減少、会員補充の困難性に直面し、規模の縮小から従来のような活動が困難になって参っておりますが、当会設立の趣旨に則り、充実した楽しい活動を模索し、続けてまいりたいと願っております。

去年は、従来続けてまいりました研修バス旅行も取り止めましたが、新たに瀬戸内海のおいしい魚を食べよう、ということで家島へ出かけました。家島本島まで、飾磨から会場1時間はかかると思っておりましたところ、高速船は30分で到着いたしました。30分とはいえ、船に乗って海上を移動するという事は、想像以上に旅気分を味わうことができましたのは、新たな発見だったと思えました。皆さんのお知恵で活動の喜びが発見できる契機でもあったと思えます。心豊かに充実した楽しい活動ができますよう、本年も知恵を絞ってまいりたいと思えます。どうぞよろしく願い申し上げます。

## 第二部 市政出前講座

講師：姫路文学館 徳重公美 様

演題「文学から見た播磨」

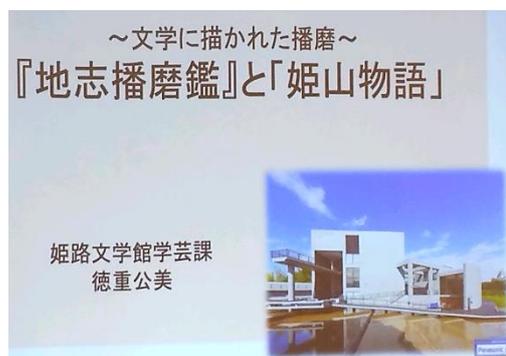


### 1. 『地誌播磨鑑』について

江戸時代印南郡(現加古川市)の医師で暦算家の平野庸修が43年かけてまとめ上げた自筆手稿本(和本17冊)。飾東・飾西・明石・加古・三木・作用・赤穂など16郡にわたって歴史を記し、仏閣・寺院跡名所旧跡・名歌について古書などを引用して詳細かつ正確に記述している。明治42年に早くも活字本が出版され、当時としては画期的な出版事業として注目された。

### 2. 『姫山物語』について

作者：椎名麟三 明治44年～昭和48年 姫路市書写の生まれ。姫路中学校を中退したあと、商店員・コック見習い電車車掌など職を転々とする。共産党員として検挙され、獄中で転向。ニーチェやドストエフス



キーから強い影響を受ける。敗戦の翌々年に「深夜の酒宴」を発表し敗戦直後の廃墟に人間存在の意味を真っ向から問う作家として登場した。野間宏、梅崎春生らとともに第一次戦後派を代表する。主な作品は『永遠なる序章』『邂逅』『美しい女』など。演劇、映画、ラジオドラマのシナリオも多数。

『姫山物語』は1963年、椎名麟三から姫路でミュージカルを上演しないかと提案がなされ、上演されたのは1963年。姫山に住んでいた富姫は播磨大領の明雄とその兄明人に求婚されたが選択を迫られて苦悩する様を描く。侍女との交流、兄弟愛、富姫と角野兄弟をつないだ伝者の葛藤が見もの。古代の様子を舞台にした作品でテーマは「二者択一」/「二者共存」。満員の客席は熱気であふれたようだ。

講師徳重様は話が上手く流暢で、初めて聞く内容も多かったが、楽しめた人も多かったと思う。 益田 記

人の世の悲しみにも 花を咲かせよ  
人の世の苦しみにも たわわに実をならせ  
平和な豊かな国を 作らん為に  
」

② 5月例会予定 5月8日(水) 12:30~

#### 【研修親睦委員会】

・親睦ゴルフコンペ開催の予定

5月13日 (白鷺 GC)

#### 【会計】ニコニコ報告

姫路南ロータリークラブ様から過分に頂きました。

明石会員：新年度が始まりました。6年度も元気で例会に参加できますように。

大橋会員：今年度も楽しい活動をいたしましょう。

川本会員：新年度です。今年度も楽しい会でありますように。

中野会員：今年度も皆様共々楽しいプロバスでありますように。

藤原会員：会報誌年6回発行且つ全12ページおめでとうございます。無理をなさらないように。

前田会員：新しい年が始まります。皆様元気な一年となりますように

## 5月例会報告

令和6年5月8日(水)

12:30~13:45

出席16名 欠席1名

### ①会員卓話 総務委員会・濱口会員 「温泉について」



日本には2500か所以上の温泉がある。温泉が好きでかなりの数、訪れた。日本で一番好きな温泉は青森県の酸ヶ湯温泉です。混浴の1000人風呂がありました。温泉には療養温泉、単純温泉など成分も硫黄、塩分など効き目もいろいろ。兵庫県にも良い温泉がある。有馬温泉、湯村温泉、城崎温泉、近くでは塩田温泉、など。中でも淡路島の「うずしお温泉」はお気に入りでも今でもクラス会などで訪れる。友達が経営している温泉旅館がある。温泉大好きです。

## ② 5月の誕生

松下会員：充実した一年をを過ごすことが出来ました。感謝！

中塚会員；コメントなし

## ③ 6月の例会予定 6月12日（水）

### 【会 計】

#### ① ニコニコ報告

大橋会員：五月晴れのようにすがすがしく過ごせますように。

川本会員：桜は終わりましたが花の五月です。

濱口会員：本日卓話で「温泉」をやらせていただきます。

松下会員：コメントの内容は誕生と同じ

#### ② 前期会費を7月例会時にお願いします。

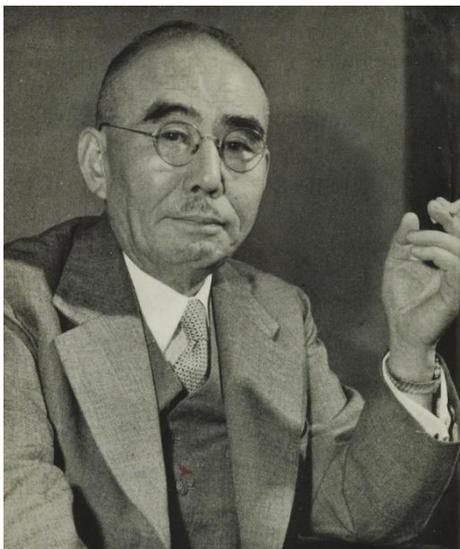
## 石橋湛山の志

長谷川一彦

今我が国は岐路にあります。ウクライナや中東で戦争が続く。米中対立葉緊張状態です。一方我が国では政治資金疑惑が浮上、派閥は四部五裂状態です。急速に進む少子高齢化と人口減少、超低水準の食料自給率、教育の荒廃、公共道徳心の劣化、そして政、財、官の退廃と無気力、責任回避です。こうした危機にあつて国会議員は使命感なき

世襲政治家がはびこり憂うべき状態です。

我が国は米国に自国の安全保障を委ね



東の間の繁栄を謳歌してきました。国の基本である憲法を米国から押し付けられ民族の核心たる歴史観を捨てられされました。我が国は亡国の道を歩んでいます。この国家危機に「独立自尊」の精神を発揮し、国民の叡知を結集して困難を乗り越えねばなりません。

かつて石橋湛山という気骨のある「独立自尊」の精神を持った政治家がいました。



敗戦後吉田内閣の蔵相に就任した湛山は国家予算の3分の1を占める米軍駐留経費の大幅削減を主張しGHQと対立しました。予算委員会の秘密会で「駐留費が日本経済を破綻に瀕せしめている」と涙組ながら、大幅削減に死力を尽くすと表明しました。これがマッカーサーの知るところとなり蔵相就任後1年で公職追放となりました。このシナリオを書いたのはホイットニー少将でしたが湛山は追放指令書の間違いを指摘する反論を書き記者会見をしました。「責任者はホイットニーだがマッカーサーにも責任がある」と述べたのでした。翌日の米国新聞はAP電を掲載し「初めてマッカーサーの横っ面を張った日本人・石橋湛山」と大書されました。GHQを相手に一步も引かず対峙した湛山は昭和31年12月に自民党総裁になりました。直後の記者会見で「アメリカの言うことをハイハイと聞くことは良くない。米国と提携するが対米一辺倒にはならない」と言ったのでした。いま国会に石橋湛山に学ぼうという機運が高まり議員連盟「超党派石橋湛山研究会」が発足し

ました。湛山議連の方々が湛山の志を継承し、政界を刷新して欲しいものです。

## 木質バイオエネルギーは日本を救う？

藤原 関夫

明治初期の神戸は開港当時 2 万数千人の人口でした。写真(絵)は開港当時の神戸居留地と裏山である六甲山ですが、既に山には木々が少ない。神戸の人口は明治 22 年には 13 万人を超え、明治 30 年代に入ると山に木々は無くなり、寺や神社に鎮守の森として僅かに残るばかりであった、と言われている。さすがに罰当たりなことはしなかった様である。薪として主に炊事に使われ、山地は激しく荒廃し、上水道の貯水池に泥流が流入して水質も悪化した。

そして明治 30 年代後半になって漸く植林が始まった。もともとの植生であった鎮守の森の樹種が使われたといわれている。山の斜面を段々畑のように平らにして土壌が雨で流れるのを防ぎ、人々が植林している写真が残っている。現在のうっそうと茂る森からは想像もできないが、六甲山系は植林された山々である。エネルギー消費の少ない明治でも六甲山が養える人口は 10 万人ほどであったろうか？神戸市の現在の



明治初期の神戸居留地と六甲山

人口は 150 万人である。

さて、本題に移ろう。木材などを使ったバイオエネルギーは二酸化をカウントしない燃料（化石燃料ではないため）として注目されて久しい。曰く、日本には使われていない木が山に沢山あるではないか。木をチップに小さく粉砕してボイラーで燃やし、発電すれば地域振興につながる。もっともである。かくして相当な補助金もあって各所にバイオ発電所が誕生した。大規模化すれば効率も上がり利益も得られそうである。

では日本にはどれほどの材木資源があるのでしょうか？六甲山ではないが、そんなに多くのエネルギーが山にあるのでしょうか？数字を概算してみることにしました。

林野庁ホームページによると 2022 年時点で人工林天然林含めて 55 億 6 千万  $m^3$ （立方メートル）あり、毎年約 1%増加しているとの由。木材は熱エネルギーのかたまりで、木材 3~4kg で灯油 1 リットル相当の発熱量を持っています。木質バイオマスの利用は、暖房などの熱利用であればボイラー効率が 70~80%程度と高いのに対して、発電の場合は水分があるために石炭（発電効率約 40%）のような高温にはならず、発電効率は 20~25%程度と低い欠点があります。木質バイオマス燃料は発電向きではないのです。

さて、木材を燃やして日本のエネルギー消費の全てを賄おうとすると、何年持つのか？は興味のあるところです。日本の総エネルギー消費量は、資源エネルギー庁ホームページによると、2021 年の一次エネルギー国内供給は 18.7EJ（エクサジュール、 $10^{18}MJ$ ）です。このうち、水力発電や太陽光・風力発電などの国産エネルギー自給率が 13.3%あり、それを減ざると 16.2 EJ を輸入に頼っている計算になります。

対して、木質エネルギーの総量を有用木

に加えて雑木まで含めて100億 $m^3$ と仮定し、木質バイオマス1kgの発熱量を10MJ（水分40%）で計算します。灯油1リットルは36.7MJの発熱量があります。さらに、水分40%のスギ1 $m^3$ の重量約530kgから1 $m^3$ 当たりの発熱量は5300MJ。これでようやく比較ができるようになりました。さらに熱効率を考慮する必要があり、50%で概算すると国内の森林蓄積熱エネルギーの総量は26EJとなります。日本の全森林を燃やして国内の全エネルギーを賄うとすると、何年持つのでしょうか？

（森林蓄積熱エネルギー26EJ）／（輸入一次エネルギー16.2EJ）＝1.6年

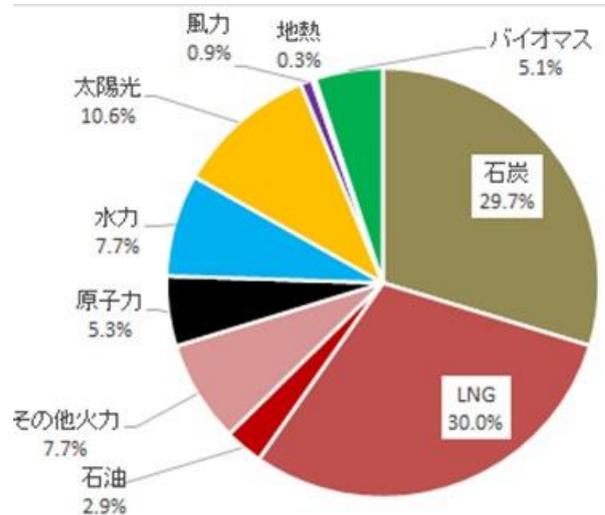
実際には、切り出せない山奥の森林もあれば、切り出しとトラック輸送に相当な石油（計算に含まず）も必要でしょう。実質1年も保たずに日本中の山は”見渡す限りはげ山”ではないでしょうか。

木質バイオ発電では大規模化したところほど、失敗しているようです。理由は単純で、「多量の木材を安価に集められなかったから」です。契約していた地元や近隣の森林組合が、徐々に遠くの山からの木材確保を迫られ、切り出しコストと輸送費が増大して安価での供給が難しくなっています。固定価格買い取りでは、利益が下がっていきます。その結果として、燃料コストが合わなくなって発電所の廃業や無償譲渡です。薄く広がった木材などの資源を集めるだけで人件費と石油（エネルギー）が必要です。

森林だけに頼っても温暖化抑制は絶対に成しえないわけで、現実はなかなか厳しいものがあります。二酸化炭素を吸収する森林を切ってしまうことの問題もあります。

こと電力に関して、2022年度の日本国内での全発電電力量の分類を示します。10年以上前から国は太陽光発電等に膨大な補助金を付けていますが、現状は太陽光が10%

強、バイオマスは約5%です。エネルギーの転換には10年単位の歳月とお金がかかることが判ります。図で、LNGとは液化天然ガスです。港にある球形状の大きなタンクが貯蔵タンクです。



2022年度 日本の全発電量割合

さて、姫路の広畑にバイオマス発電所が昨年末から発電を開始しました。国内最大級となる発電容量約7.5万kW（約3万世帯相当）で大阪ガスが主体です。燃料は、輸入木質チップと油かすのパームヤシ殻、そして一部国産チップだそうです。港の近くに建設されたのは輸送のためのようです。成功を祈るばかりです。

## 83歳を迎えて

田中昭夫

今次大戦の勃発する9ヶ月前に、生を受けて物心ついた頃には空襲・焼夷弾の恐ろしさを身を以て体験し、戦後の食糧難時代を何とか生き延びて、飢餓から脱出するために学び・懸命に働いて、晴耕雨読の生活を迎えることが出来る喜びを、今日までご縁のあった、総ての方々に感謝申し上げます。

ひよんなことから「酔古堂剣掃」と触れ合う機会に恵まれた。この書物は明末の教

養人・陸紹?(りくしょうこう)が長年愛読した古典の中から会心の名言嘉句(かく)を収録した出色の読書録であります。

### 1. 真の「生計」、真の「交遊」

・世路(せろ)の人、或は功名を図り、或は生産を治め、儘(みな)自(みずか)ら正(せい)経(けい)とす。

世間の人が生きていくその過程で、何故人からやんや言われるようなことをやりたい。何か成功しよう、何か産業を興して財産をつくらうということを、世間の人々はそれこそが本筋の生き方だと考えている

・天地間の好風月、好山水、好書籍、了(ついに)相(あい)渉(わた)らざるを争奈(いかん)せん。

せっかく与えられているこの天地間の好風月・好山水・好書籍というものを楽しんで、それを身につけるといようなことに直接関与しない。没交渉に終わってしまうことは、なんとなさけないことじゃないか。

・豈(あに)に一生を枉却(おうきやく)するにあらずや \*枉=曲げる

せっかくの人生、人間の一生というものを曲げてしまう。使いものにならなくしてしまう。

せっかく人と生まれてきながら、天地間の好風月・好山水・好書籍、歴史の尊い産物といったものを自由に楽しむ、用いるということができない。ケイケチとただ単に金儲けとか出世とかいうことに没頭している、もったいないじゃないか、そういう考え方があります。

### 2. 間居の趣、快活、五あり

一 与(とも)に交接せず、拜送の礼を免るる往来がないから出迎え、見送る煩わしさが無い。

二 終日書を観、琴を鼓す

終日書を観たり、琴を奏でる。

三 睡起・意に随い、拘碍(こうげ)あるなき眠ければ眠る。起きたければ起きる。

意のままである。

\*拘碍=何もそこに引っ掛かりがない、妨げがない、自由自在である。

### 四 炎涼囂(ごう)雑(ざつ)を聞かず

暑い寒い、やかましいのゴタゴタするの、というようなことを聞かん。

### 五 能く子に耕読を課す

俵に農事の余暇に書を読ませる、耕読を課する。



「醉古堂剣掃」に見られる大きな特色の一つは、自然に対する限りない憧憬(しょうけい)の情です。

数々の名言・警句にうかがわれる自然との景物に対する濃(こま)やかな観察は、現代を生きるわれわれに忘れられていた自然の魅力を再発見させ、現代人のストレスを解消するよすがとなることでしょう

## ベル・ビーの会

(美しい人生の会) Belle・vie

前田外美子

上京の折、いくつかの会に出る。決まって「姫路にいつ帰るの?」と聞かれる。

「老人会に合わせて帰ります」と言う。”お世話、三年目になる”この老人会と言う言葉が、何とも暗くて重いイメージしか湧かないらしい。今回、仏語も堪能な友人から「ベル・ビー」が如何かしらと提案を受

けた。それがいい！！と大拍手。さて姫路で受け入れて貰えるかどうか。ほどなくして、町内の五年ぶりとなる食事会があった。マイクロバスで30人程の満席で御津方面に向かった。生き魚料理に箸もすすみ、カラオケも大盛況。最後の乾杯のときである！！ベル・ビー、ベル・ビーと声が上がった。驚きびっくりしたのは私である。仲間の一人に実はねえ！！とベル・ビーの話をしたことがこの結果となった。仲間たちには各々に小さな仲間がいる。ベル・ビーにしたのと好評のようだ。

先達て上京の折、結果報告をしたらみんな拍手で喜んでくれた。にわか「ベル・ビー」の活発な姿が、私の友人たちにも伝わった様で嬉しかった。

ベル・ビーに乾杯！



## 短歌

川本祥子

ひとり居は 寂しかろうと 言う人の  
ことばを聞くも 気楽さ楽し

ひとり居の 暮らしに慣れ来て 思うこと  
如何に命を 終えるべきかと

待つ人の 居ぬ暮らしなり そとに出で  
急ぎて 帰らなくとも よし

落の董 摘み来て 作る春の味噌  
味愛でくれる 夫今は亡き

寒暖差 激しきこの年 土筆の子  
顔を出しおり 霜に打たれて



## 『4万 km を歩いた男、伊能忠敬の「人生二度有り」』（シリーズその24）

松下秀明

輝政の子孫で慶喜の弟である岡山藩主池田茂政は、なぜ姫路城を砲撃したのか？

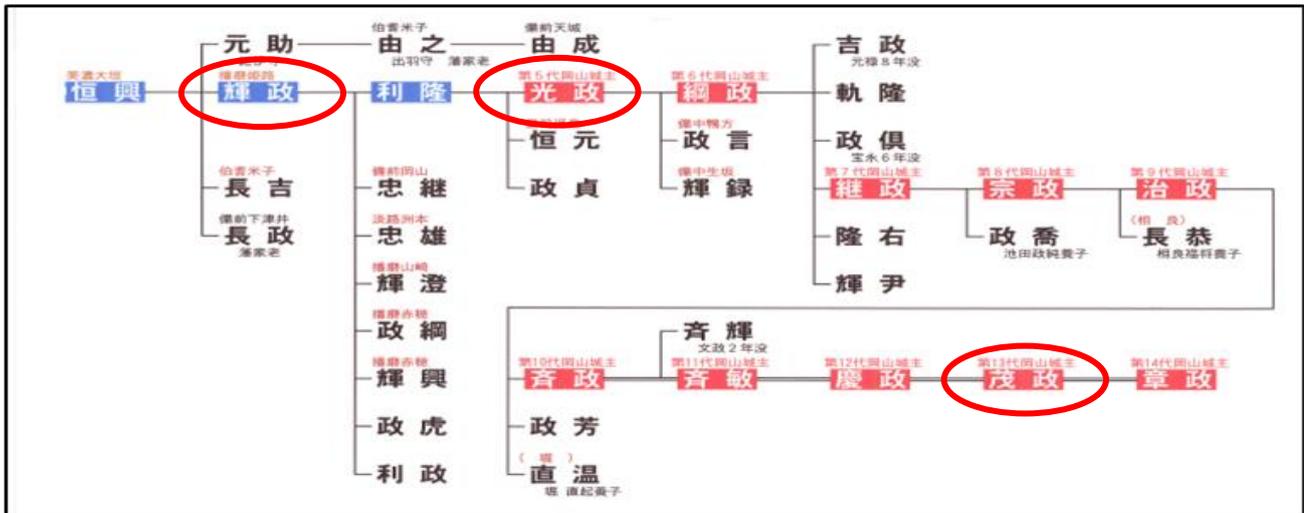
(つづき)

ちなみに、信雄は小心者という印象で伝えられているが、実は父信長を継承しようとする野心があった。居城である岩崎城の金の瓦や、花押や天下布武のデザインを真似したり、尾張一体にお城のネットワークを作ったりしていた。柴田勝家が信長の三男信孝を担いで反乱に出た時、秀吉が勝家を打ち破ったが、その背後に信雄が活躍した。小牧長久手の戦いでも秀吉軍が楽田城を出て岡崎城へ向かった時、中間にある岩崎城でその進軍を食い止め、家康軍が追い付くことが出来た。この激戦により秀吉と家康は一発触発の危機を迎えたが、その仲介役をして和解させたのが実は信雄であった。最近発見された書状などで、新事実が明らかになってきたようだ。

書籍『徳川家康のすべて』(ワン・パブリック)によると、「徳川氏の軍事の内情に通じた数正の出奔に加え、秀吉が本格的に家康討伐に動いたことで、家康は大きな危機に瀕した。だが、天正十三年(1585)に畿内を襲った天正大地震により、家康は窮地を免れ延期した。翌年、織田信雄の調停により、家康は秀吉との和る。領国で甚大な被害を受けた秀吉は出陣を睦に応じ、臣従を受け入れる」と解説されている。家康の武闘派家臣団からは猛烈な抗議があったが、家康には全面抗争する余力がなく、信雄の書状に従った。近畿・東海・北陸地方に大きな被害をもたらした巨大地震は、大垣城を全壊し、長浜城も崩れてしまったという。

誓った。そして関ヶ原の前哨戦ともいえる岐阜城の戦いにおいては東軍(徳川方)の勝利に大きく貢献している。関ヶ原の本戦には参加しなかったが、西から毛利の大部隊が攻め込んでこないように、吉川広家を調略し動かないようにした。その結果、督姫の関係もあって三河吉田に15万石を領する輝政が、播磨(現兵庫県)に52万石の領地を与えられ、姫路城に本拠地を置くようになって姫路藩が誕生した。

もっとも家康からは内々に播磨でも美濃でもどちらでも取りなさいと言ってきた。輝政が老中を集めて聞くと、播磨はなじみがなく美濃は昔自分たちがいた所だから美濃をもらおうと進言してきた。ただ一人、



池田家家系図

池田家の家督を継いだのは次男の輝政である。輝政は秀吉配下の武将として持ち前の武勇を発揮、秀吉が天下統一を達成すると三河に約15万石の領地を与えられただけでなく、いちはやく豊臣家の一門に準ずる扱いを受けた。徳川家との絆を強くしたい秀吉の口添えで家康の次女督姫を後妻に迎えることになった。督姫は最初北条氏直の元に嫁いでいが、北条氏が滅亡し、氏直も病死したため、実家に戻ってきていた。これを哀れに思った家康が秀吉に頼み込んで輝政に再嫁したともいわれている。

秀吉が没すると輝政は義父家康に忠誠を

腹心の伊木清兵衛だけが、播磨を推薦した。『池田家三代の遺産』(播磨学研究所・編、神戸新聞総合出版センター)によれば、「米の石高でいちばん豊かなのが播磨、二番目が越前だと諺になって残っているではないか。播州が上々の国であることは歴然である。しかも東西が大戦争になるとすれば、だいたい戦場は関ヶ原のような、尾張と美濃の間となる。美濃を取れば、政権を取った関東の勢力は、必ず美濃と尾張は自分のものとして取ってしまうだろう。それに比べると播州は西に備前、南に淡こここで池田家を大きくす路がある。れば、関東でどう

「**いう政治的な動きが起こったとしても、池田家は没収されたり戦場になったりせず長らえることができる**」と発言したことが紹介されている。事実、播磨は輝政が52万石、備前(岡山)は忠継が28万石、淡路は忠雄が6.3万石、因幡(鳥取)は長吉(初代藩主)が6万石を取り、池田家が西の防衛ラインを築くことができた。

姫路藩の初代藩主で姫路城の第18代城主になった輝政の役目は、家康にとって大きなものであった。天下人になった家康にとって姫路は西国の重要地だった。なぜなら巨大な大坂城にいる豊臣秀頼をはじめ、西国大名たちの監視の役割があった。いわゆる西の前線基地であった。そこで輝政は秀吉が築いた三重の天守を慶長六年(1601)から8年費やして五重に作り替え、現在の天守(姫路城)の姿になった。池田家は徳川家の准一門として畿内近国の西縁に一族で総計100万石に近い領土を有するに至った。これは加賀藩前田利長の120万石に次ぐ規模であった。ただし、これは関ヶ原の戦い直後のランキングである。

輝政亡き後を継いだのが最初の正室糸姫との間に生まれた長男の利隆であったが、33歳で他界し長男光政が跡を継いだ。光政は幼少だったので要地姫路の君主が幼児であるのは心許ないという幕府内での意見により、姫路を取り上げられて鳥取に国替えされてしまう。一方、岡山は輝政の次男忠継に与えられていたが忠継も若くして没したため三男の忠雄(ただかつ)が後を継いだ。しかし忠雄も病没し跡を継いだ嫡男である光仲はまだ幼少だった。岡山も姫路同様山陽道の要地であり、光政が家督を継いだ時と同様の意見が幕府内で起こった。そこで幕府は成長した光政を岡山に据えて、鳥取に光仲を移させた。

さて本題に入る。岡山藩主池田茂政(もちまさ)は輝政の子孫であり、徳川慶喜の弟で

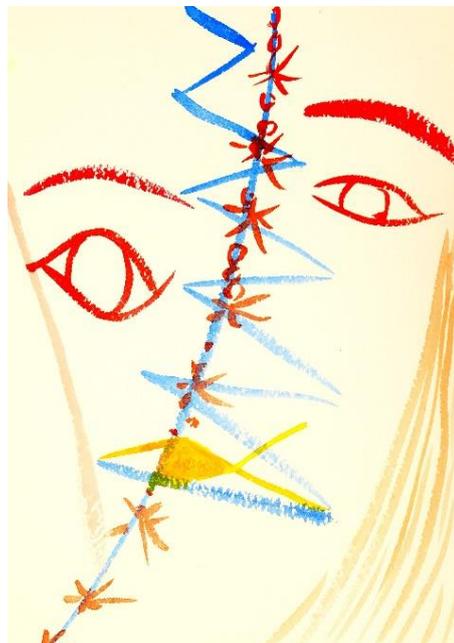
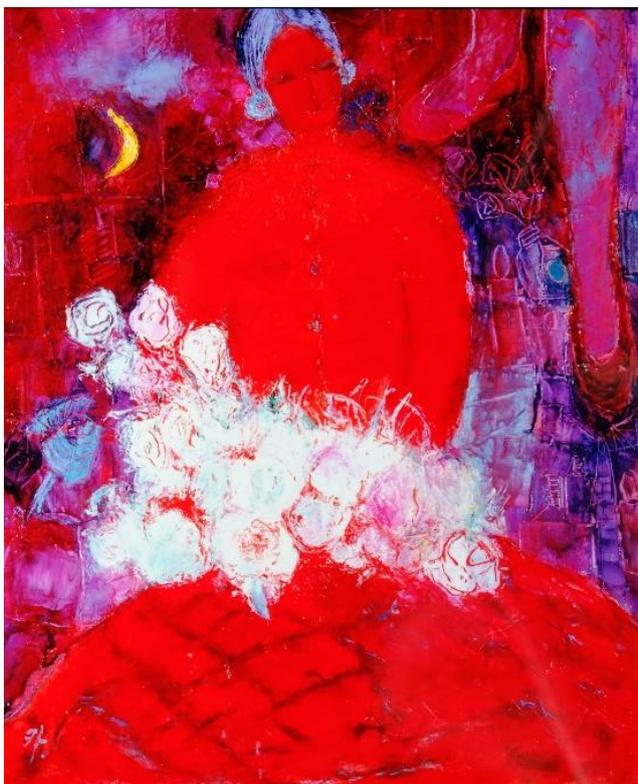
ある。父・徳川斉昭は37人(22男15女)の子供がいた。慶喜は嫡子で7男、茂政は庶子で9男、二人は2歳違いの兄弟である。姫路城を攻めるということは、先祖と兄を討つことになる。茂政は水戸藩主徳川斉昭の9男で、請われて婿養子なり第9代岡山藩主になった。実は、7代斉敏も8代慶政も婿養子で3代続いていた。家臣は代々土着の武士であった。茂政も水戸藩からきているので、尊王攘夷派であったが、家臣たちは薩長に傾いていた。

元備中今常陸国之住人のブログによると、「**姫路藩主酒井忠惇(ただとう)は老中として、慶喜と行動を共にしていたため、朝敵とされ、攻撃するように命じられたのでした。姫路城は、池田家の先祖、輝政公が一族の繁栄を願って作ったお城です。そして姫路藩主は、兄、慶喜のために今も戦っているのです。茂政公にとっては、これも辛い役目だったに違いありません。**

このまま、話し合いだけで、無血開城できたのです。しかし、長州藩は「手ぬるい！岡山が攻撃しないなら、長州が攻撃する！」と脅してきました。強硬派の長州藩に攻撃させたら、姫路城も城下もことごとく破壊されるでしょう。岡山藩はいきなり攻撃をせず、朝敵となって追討を命ぜられたことを姫路藩に伝えました。姫路藩は、家臣団の会議の結果、城を明け渡すことを決めました。(にもかかわらず)岡山藩は姫路城を砲撃することにしました。実弾と空砲を合わせて4~5発程度」とあり姫路藩は降伏したにもかかわらず、警告の砲撃を受けた(茂政は砲撃をせざるを得なかった)。この事態を取集するため、先にお話しした北風正造らが奔走し、15万両の資金提供と引き換えに砲撃は中止された。しかし、茂政は板挟みに耐えられず、藩主の座を降り隠居してしまった。

Peace

No more war



まえだ とみこ

編集後記

新年度が始まり最初の会報が出来上がりました。総会において1年の計画が承認され楽しいプロバスクラブになるよう期待しています。日々の生活での出来事や外出先での体験談をお寄せいただければ有難いです。お待ちしております。N

姫路南プロバスクラブ広報誌  
姫路市南駅前町 100 ホテル日航姫路 601 号室  
姫路南ロータリークラブ事務局内  
電話 079-224-8224  
会報発行：広報委員会